

駅や高速道路など生活に欠かせない構造物を地面の下で支える“杭”を打つ！
 失敗の許されない重要なミッションを成し遂げるために“強いチームワーク”を発揮する
 恵比寿機工の皆さんに、お互いの“支え”についてお聞きしました！



インフラを支える“杭”を打つ！ 難関工事に挑み続けるプロフェッショナル集団の仕事



営業 (カスタマー・ソリューション・チーム)
 鉄道会社やゼネコンから相談を受け、工事の計画を提案！使用する重機についての打合せや検討をして、見積書を作成します。社内会議で他部署と工程の調整も行います。

※ お客様(カスタマー)へ、問題の解決を提供する(ソリューション)チーム



事務
 工事に必要な書類作成や、請求・支払い等のお金に関する業務、社員の福利厚生^{（きふりこうせい）}の手続きのほか、webサイトやSNSでの広報活動、採用活動などを行い、社員のバックアップをします。

※ やりがいある働きやすい環境をつくるために、企業が社員やその家族に提供する給与以外のサービス。

TEAMWORK

工事

現場で重機(クレーンや杭打機など)を操作し、杭を地中に打ち込みます。責任者である職長のもと、作業の指示を出す合図マンや重機オペレーターなど、全員で協力し工事を進めていきます。



技術開発

重機の点検整備を行うほか、予定された工事にむけオリジナルの重機を設計・開発することも。また、現場で重機のトラブルがあれば急行し、その場で応急処置や修理を行います。



会社名：恵比寿機工株式会社 住所：横浜市旭区上白根町1107番地7 TEL：045-459-5820
 事業概要：杭打ち・杭抜き等、土木・建築の各種基礎工事。上空制限のある場所や鉄道の軌道内など特殊な現場に特化し、業界内でワンダントオンリーな地位を築いています。



“見えない”地道な仕事こそ チームの力を強固にする

■営業(CST)で担当している仕事は？

工事受注のためにまず動くのが私たち。駅のホームの新設工事があると情報が入れば、鉄道会社に問い合せたり、工事の元請けとなる可能性のあるゼネコンへ話を聞きに行きます。提案の機会を得たら、現場の地盤状況を調べ、どんな重機を入れてどのくらいの工期がかかるのか見積りを作成し、C.A.D(設計ソフト)を使って平面図や断面図を作ります。1年かけて準備した提案が通らず他社に決まると悔しい気持ちもありますが、お客様に納得してもらえ、より良い提案にしようと常に心がけて対応していれば、別の工事で声をかけてもらえる可能性もあります。

※大規模な土木・建設工事の設計から施工まで、工事全体のとりまとめを行う総合建設業者のこと。

■他の部署の“支え”を実感するのは？

図面作成時に重機の実寸の計測が必要だったり、専用の部品を作るための期間や費用を確認したい場合は技術開発部のメンバーに直接聞きにいけます。社内に専門家がいるからこそ正確な数値に基づいた提案ができますし、現場での緊急時には昼夜関係なく対応してくれる心強い存在なんです。

■“チームワーク”に必要なことって？

20歳離れた若手に「もっと大きな声で挨拶しな」と伝えることもあります。反対に自分がミスをした時はすぐに謝る。どんなことも率直に伝え合える環境をつくっておきたいですね。



営業

O.Yさん

所属：カスタマー・ソリューション・チーム(CST)
 道のり：古河市立三和中学校(茨城県)▶
 茨城県立古河第二高等学校▶
 佐野短期大学経営情報科



工事

Y.Rさん

所属：工事部
 道のり：川崎市立東橋中学校▶
 鹿児島県立出水工業高等学校

仲間への絶対の信頼が 固い地面を貫く

■工事部で担当している仕事は？

首都圏の駅の地下化や高速道路の延伸工事などで、その土台となる“杭”を打ち込んだり、不要な杭を撤去する作業を行っています。私は重機を操るオペレーター。地盤の固さや掘る位置を自分の目で確認して操縦席に座ったあと、現場全体を見渡し指示してくれる“合図マン”との共同作業。高さも幅も5mしかないような特殊な状況下でも、周囲の人や壁面に接触しないよう「ストップ」のサインを見逃さず、手元の感覚に意識を集中させています。

どが私たちの役目ですが、わざわざ現場に足を運び「いつもありがとう」と声をかけてくれるので、パワーをもらっています。作業を見られる緊張感もありますが(笑)、工事部とは異なる視点から、作業環境の整理や設計書との相違についてアドバイスをくれることもあるので「ゆっくりに見ていてね!」という気持ちもあるんです。

■“チームワーク”に必要なことって？

「仲間を思う気持ち」。普段より元気がないと感じれば「大丈夫か?」と早めに声をかけます。先輩も後輩も関係なく日頃から気遣って、助け合える関係性を築きたいですね。

■他の部署の“支え”を実感するのは？

CSTが受注した工事を計画通り進めるこ

この手にすべての知識と技術を込めて あらゆる期待に応える

■技術開発部で担当している仕事は？

自社で保有する杭打機やバックホーなどの重機を1カ月に1回点検したり、現場に向かう前や工事終了後の整備も行います。同業他社から修理の依頼を受けることもあり、最近では四国まで出張しました。普段は、重機置き場でベテランの方とペアでの作業。人が行き交う工事現場では一滴のオイルの漏れも“危険”と判断され作業がストップしてしまうため、トラブルなく重機が帰ってきてくれると「良かった」とホッとしますね。

下で重機の部品交換の必要があって…。工事部のメンバーが100カ所以上のボルトの着脱を手伝ってくれて本当に助かりました。だからこそ重機整備の際は、オペレーターの乗りやすさや扱いやすさをイメージしながら、丁寧に仕上げたいんです。

■“チームワーク”に必要なことって？

自分から“声をかける”こと。もともとは苦手でしたが、先輩方がどんどん話しかけてくれるうちに自信を持てるようになって…。「頼りにしている」という相手への意思表示にもなるので、自分も積極的に話そうと思うようになりました。

■他の部署の“支え”を実感するのは？

トラブルの連絡を受けたものの、現場へ急行できた技術開発部員が2人だけだった時、炎



技術開発

Y.Yさん

所属：技術開発部
 道のり：川口市立元郷中学校(埼玉県)▶
 昭和鉄道高等学校(東京都)